

色鉛筆ハリネズミさん

Niyo

小さな村のはずれにある

小さな森の奥に可愛いお家があって

ハリネズミが住んでいました。



「やあ、ハリー。

今日も美味しそうなリンゴだね。」



「おはよう、スズメさん。

そうでしょ！だってボクの大好きなリンゴだからね。」

「今日も村に行くのかい？」

「うん！皆の顔を見なきゃボクの1日は始まらないからね！」

「気をつけて行ってくるんだよ」

「うん！ありがとう、スズメさん。」

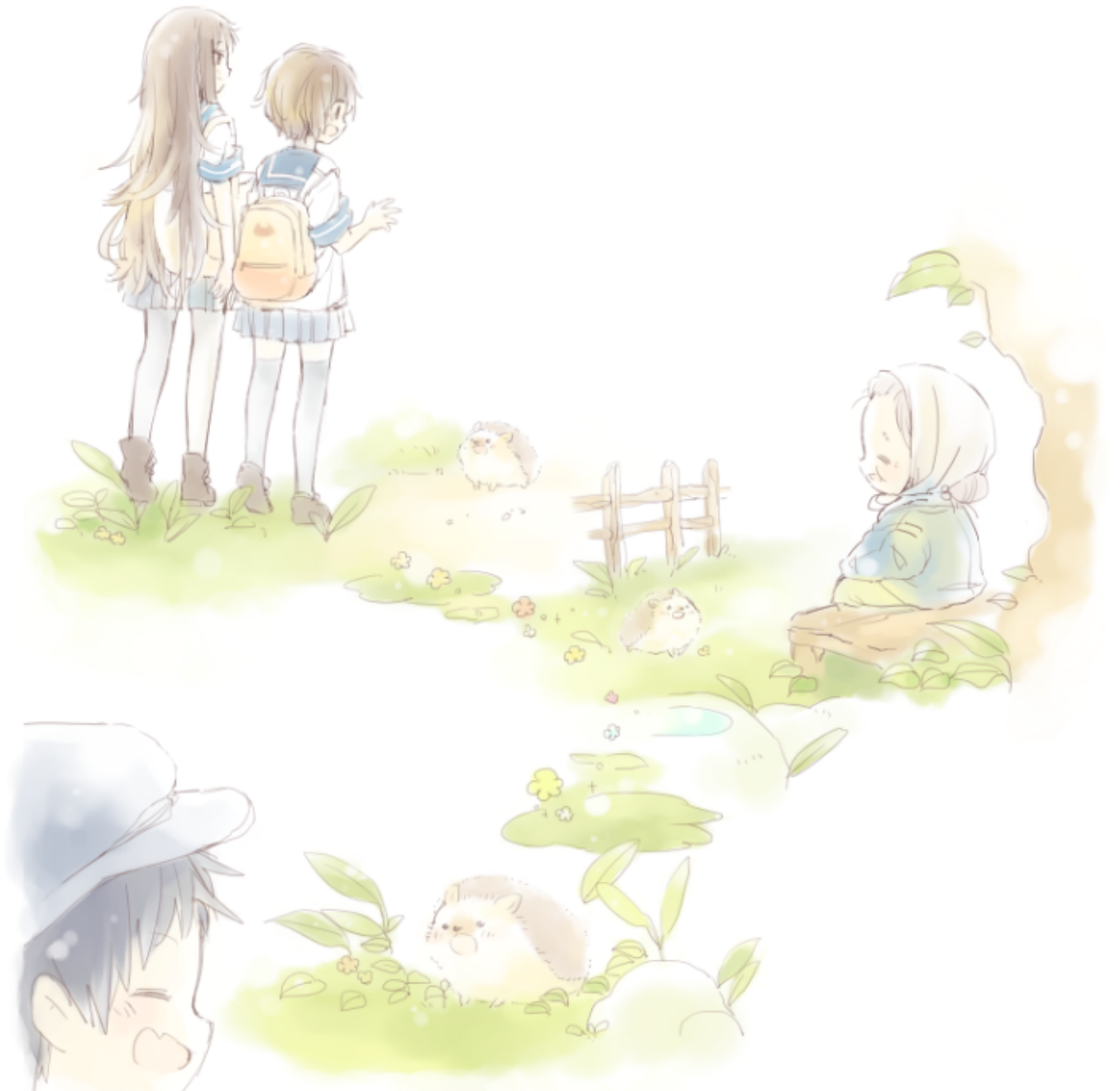


「おはよう！」

お姉さんもお婆ちゃんもお兄さんも、おはよう！」

「おはよう、ハリー。」

ハリーは色々な場所に顔をだしました。





「ハリー、おはよー！」

「ゆりちゃん！おはよう。」

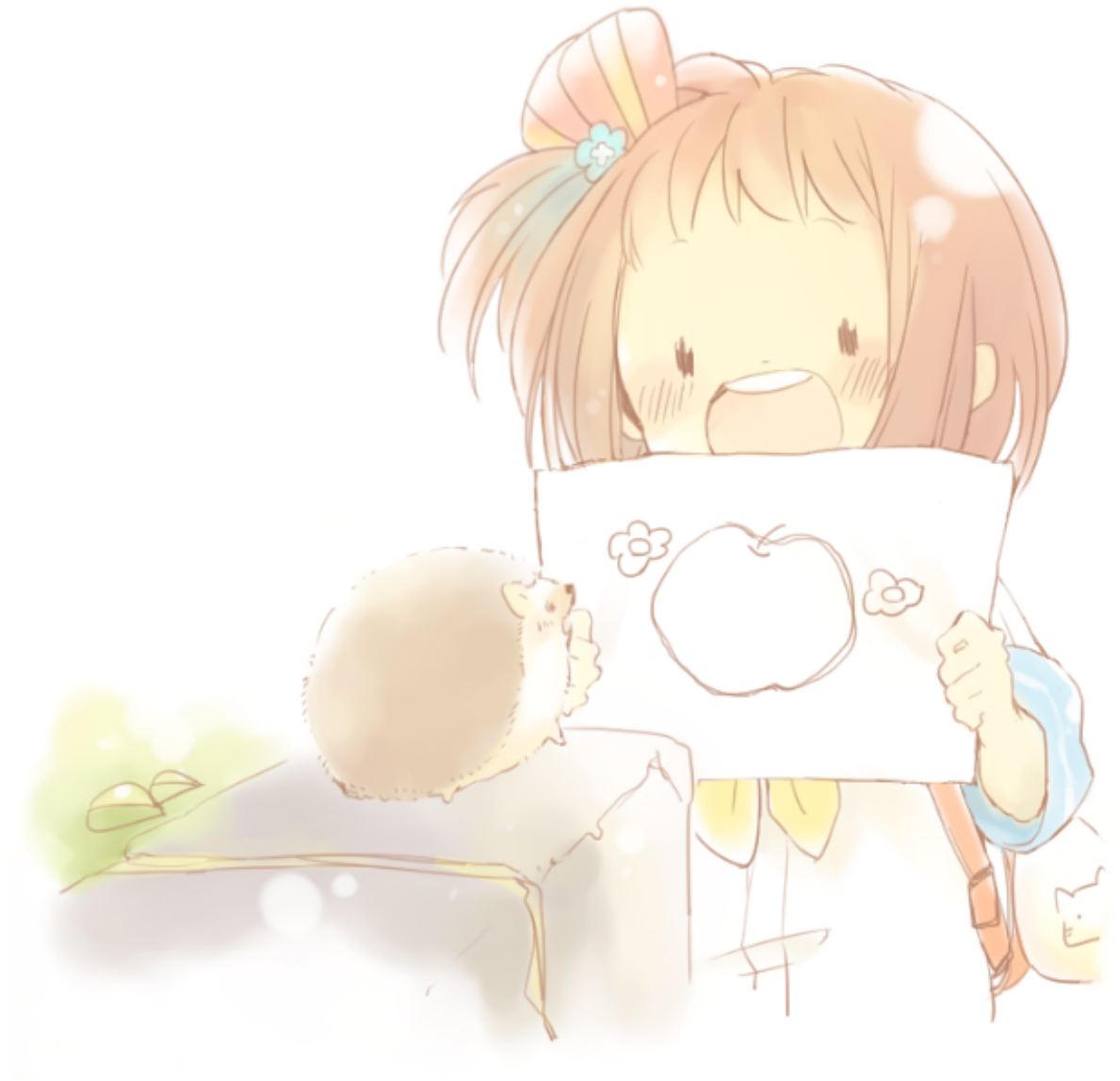
「ねえ、ハリー見て！

私 昨日ハリーの好きなリンゴを描いたんだよ！」

「わぁー！本当だ。

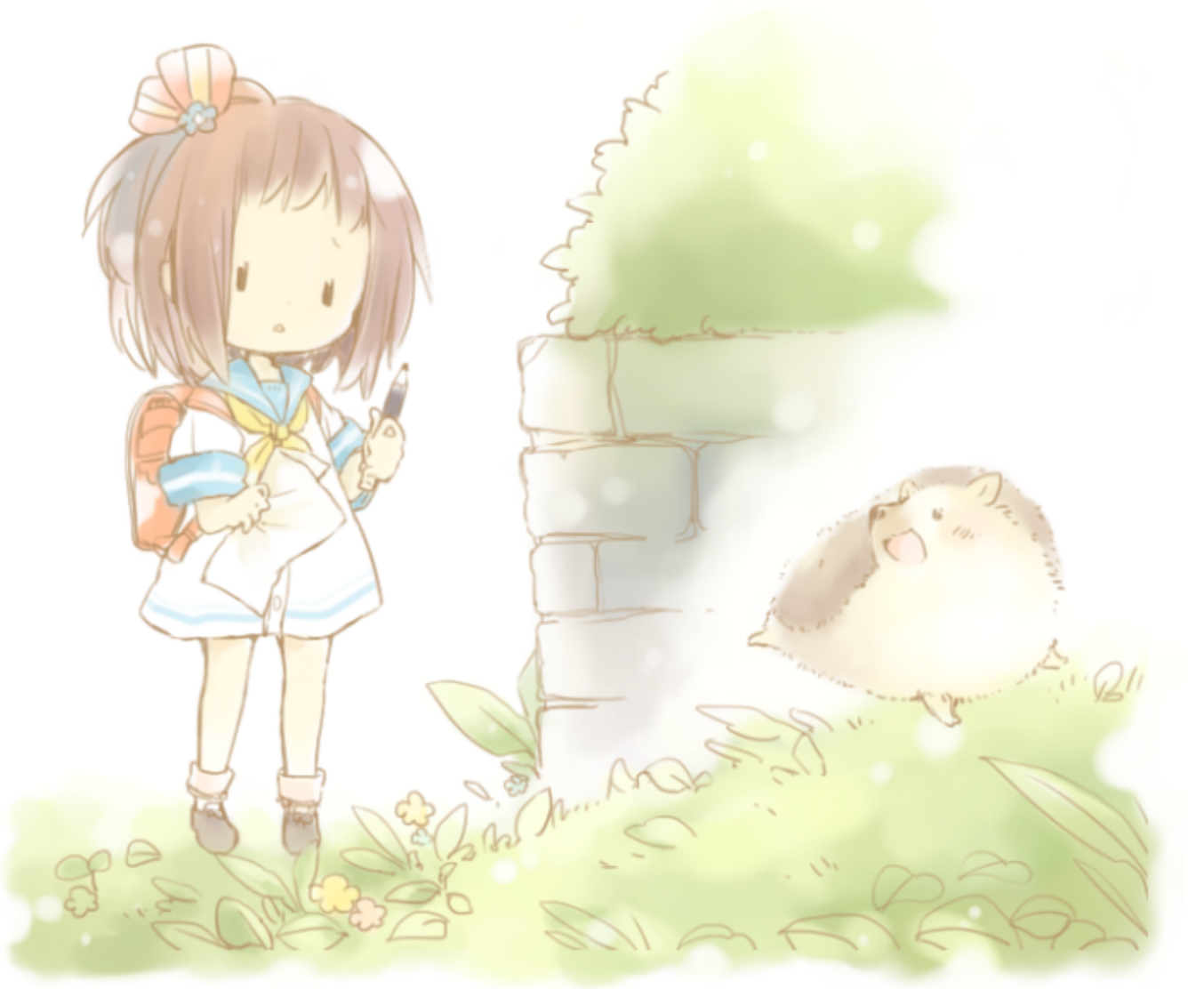
でも このリンゴ真っ白だよ。

形は似ているけどボクの知ってるリンゴはとっても赤いよ。」



「でも、私この黒色のエンピツしか持ってなくて…。

色のついたものもあるみたいなんだけど、高くてこの村にはないって
お母さん言ってたの…。」



「じゃあ、ボクが探してきてあげるよ！」

そう言って、ハリーは森へ向かっていきました。

「あれ？ハリー、今日は帰りが早いね。」

「ねえ、スズメさん。

ボク 先がとんがってて色がついたものを探してるんだけど

君知らない？」



「それ私知ってるかも！」

「本当に！？

ボクをその場所に連れてって！」

スズメさんと、ハリーさんは
村から少し離れたところにある
大きな畑にやってきました。



「先がとんがってて色のついたものって

これじゃないかな？」

そうってスズメさんはアスパラを指さしました。



「うーん、ボクの見たものとは違うなあ…」

「おや、珍しい子たちがおるねえ」

「モグラのお爺さん！

ねえ 先がとんがってて色のついたもの知らない？」

「おお。それなら、わしの家の上にあるぞ」

「え！本当に？！ちょっとボクをそこまで連れてって！」



「これのことじゃろ？」

そうって モグラのお爺さんはキノコを指さしました。



「うーん…これもボクが見たものとは違うなあ。」

「ちょっと　そこ！

あぶないよー！

どいてどいてー！！」



「わあ！ なになに？！」

「ごめんなさい。小さな可愛い森の住民さん。」

「イノシシのお姉さん、そんなに慌ててどうしたの？」

「そろそろクマ食堂が開く時間なのよ！

皆も一緒にいかない？」

「でも、ボク今探し物してて…」

「あら、何を？」



「ボク今先がとんがってて色のついたもの探してるんだ」

「そうなのね。」

クマ食堂のおばちゃんは物知りだし、色々なものがあるから

もしかすると、あなたの探してるものあるかもしれないわ！」

「本当に！？じゃあボクもいくよ！」



「おやおや。

今日は皆揃っていらっしやい。

今日は野菜たっぷりのスープだよ～」

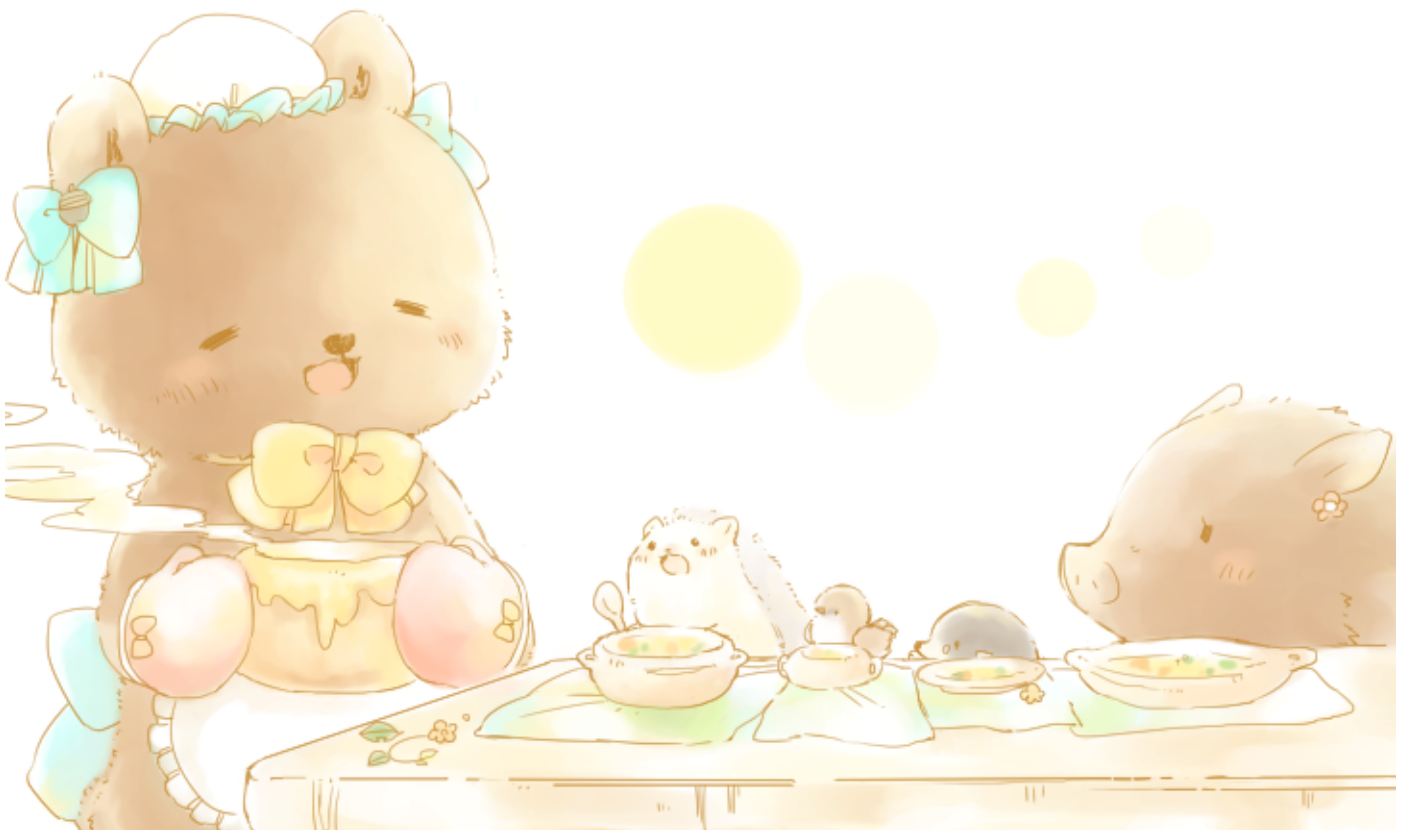
「ねえ、クマのおばちゃん。

先がとんがってて色のついたもの知ってる？」

「そりゃまたどうしたんだい？」

「ボク村のゆりちゃんに探してくるって約束したんだ…！

クマのおばちゃん持っていない？」



「そうだったのかい。

おばちゃんの家にあるといいんだけどねえ。」

そうってクマのおばちゃんは食堂の奥の部屋に

連れてってくれました。

「わぁー！色々ある！！」



「んー…でも

ボクの探してるものはなさそう…。」

「そうかい。それは残念だねえ…。」



「どうしよう、ボク見つけれない…。」

これじゃあ ゆりちゃんに嫌われちゃうかなあ…？」

「そんなことはないさ。

友達の為にうーんと沢山探したんだから大丈夫だよ。

ハリーはとっても優しい子だね。」

そう言って小さな入れ物をくれました。



ハリーが入れ物の蓋をあけると、その中には

「スープだ！！」

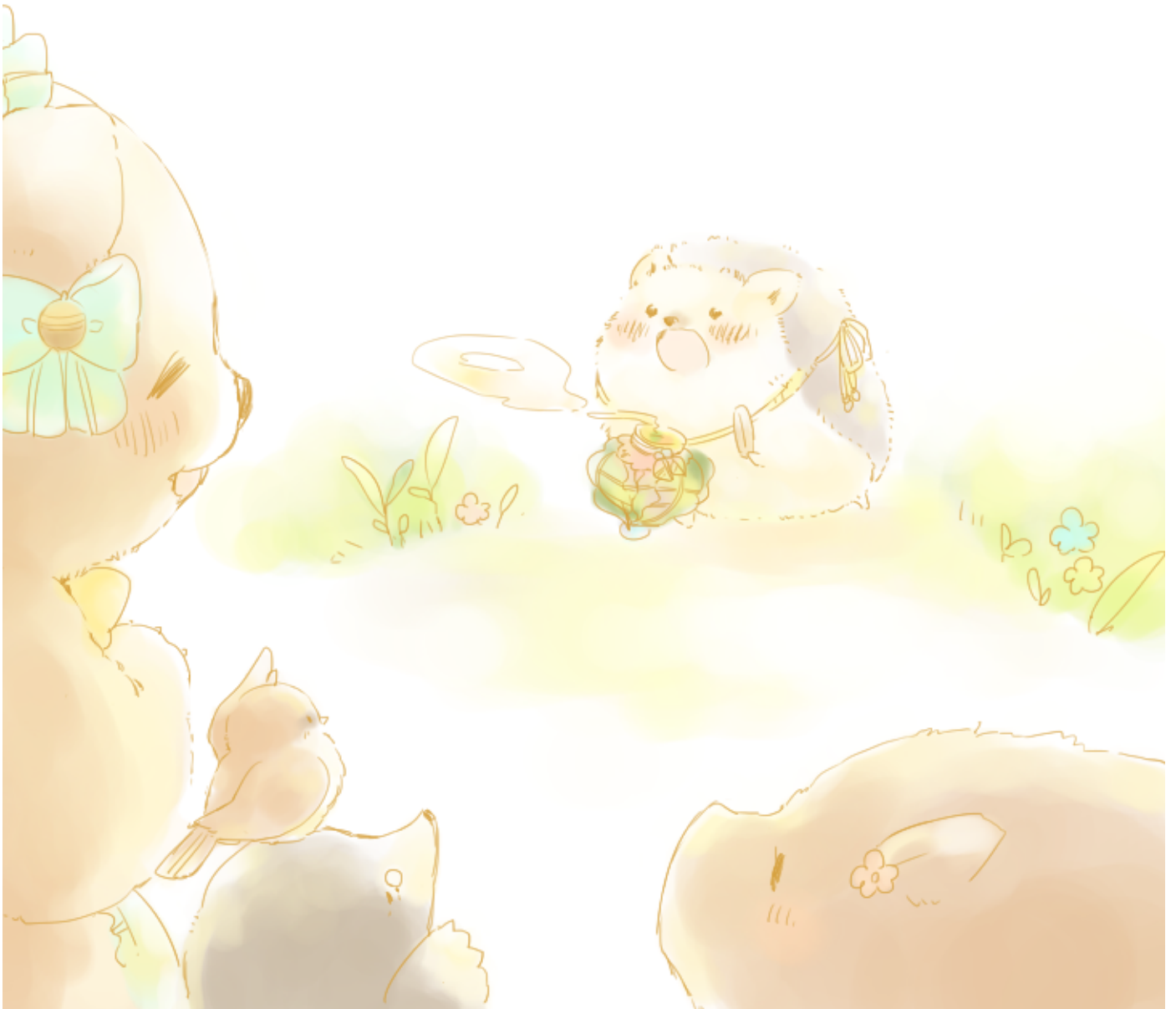
「そのお友達と一緒に食べるんだよ。」

「うん！ありがとう、クマのおばちゃん。」

スズメさんも、モグラのお爺さんも、イノシシのお姉さんも

皆一緒に探してくれてありがとう！

ボク、ゆりちゃんのところに行くよ。」



「うーん…でも

ゆりちゃんになんて言ったら…」

「ハリー！

帰ってきてたんだね！ハリー！」



「ゆりちゃん！」

「よかった。ハリーいきなり飛び出していっちゃうから

心配したんだよ。」

「ごめんね、ゆりちゃん。

ボク、ゆりちゃんが言ってたものを探しに行ったんだけど

見つけれなかったんだ。」

「いいんだよ、ハリー。ありがとうね。」

そう言って、ゆりちゃんがハリーを持ち上げると

ハリーからぽろっと何か落ちました。



「ハリー、何か落としたよ？」

「ハリー！これ私が言ってたエンピツだよ！」

「え？！でもボク拾った覚えがないよ」

「ハリー！！見て！

ハリーの背中中のハリ所々色がついてる！！」

「本当だ！！ボクどうしたんだろ？！」



「こんなヘンなハリじゃ皆に会えないよ…。」

「え?! どうして?

とっても素敵なハリネズミさんだよ! 今すぐ皆のところに行こうよ!」

「そういえばハリー今日はどこまで探しに行ってくれたの？」

「畑から山のとっぺんの食堂まで行ったんだよ！

そこでお土産にスープを貰ったんだ！」

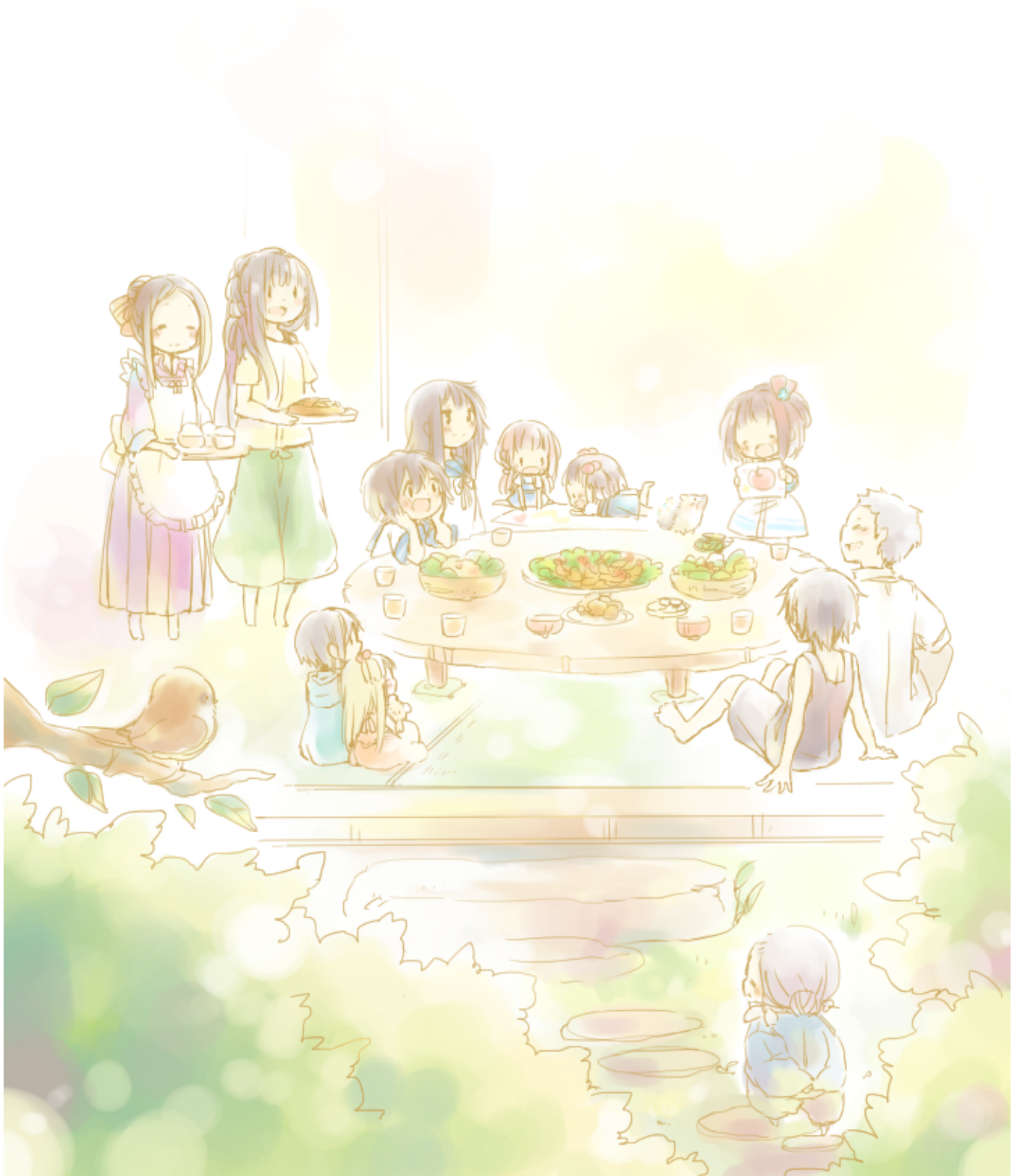
「じゃあ皆でご飯を食べながら

ハリーの今日1日の大冒険聞かせてよ！」

「うん！」



このあとハリーとゆりちゃんと村の皆は
ハリーのスープと沢山の食べ物を用意して
今日1日のハリーの大冒険のお話をしながら
楽しい時間を過ごしました。



おしまい